

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、文中に登場する「キリコさん」は、「私」が十一歳から十二歳になる間の一年足らず、「私」の家で働いていたお手伝いさんです。

十一歳の夏休み、仕事で一カ月ヨーロッパを回っていた父親から、お土産に万年筆をもらった。銀色で細身の、スイス製の万年筆だった。

キャップを取ると、磨き込まれた流線型のペン先が現われ、それは見るだけでも胸が高鳴るほど美しく、持ち手の裏側にはその曲線によく似合う筆記体で、私のイニシャルYHが彫ってあった。

おもちゃ以外のお土産をもらうのは生まれて初めてだったし、まわりで万年筆を使っている子など一人もいなかったから、自分が「一足飛びに」大人になったような気がした。この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を發揮できると信じた。

私はいつどんな時も、書きたくて書きたくてたまらなくなつた。国語の漢字練習帳がいるからと母に嘘をつき、お金をもらって大学ノートを買った。学校から帰るとランドセルを置き、真つすぐ机の前に向かってとにかく万年筆のキャップを外した。

いざとなつて、自分が何を書くつもりなのか、ちつとも考えていないことに気づいたが、私は2「ひるまなかつた」。そんなことは大した問題とは思えなかつた。インクがしみ出してくる瞬間や、紙とペン先がこすれ合う音や、罫線の間を埋めてゆく文字の連なりの方が、ずっと大事なのだった。

大人たちはすぐに、娘が何やら夢中になつて書いていると気づいたが、必要以上に干渉はしなかつた。とにかく机の前で書き物をしているのだから、それは勉強、例えば漢字の書き取りのようなものに違いないと思ひ込んでいた。

スリッパをはいて階段を登つてはいけないとか、お風呂に入った後は冷たいものを飲むてはいけないとか、あの頃課せられていた多くの禁止事項の中に「書き物」が加えられなかつた代わりに、大人たちは誰も書かれた内容については興味を示さなかつた。①どうせ自分たちの知っている漢字ばかりなんだから、という訳だ。

私はまず手始めに、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『フアーブル昆虫記』のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャリーが朗読する詩。『恐竜図鑑』のプラノドンの項。『世界のお菓子』。トライフルとマカロンの作り方。……

想像したよりずっとわくわくする作業だった。A自分が考えた言葉ではないにしても、②それらが私の指先を撥け抜けて目の前に現われた途端、いとおしい気持ちに満たされたのは自分自身なのだ。

私は疲労感と③優越感の両方に浸りながらページを撫で付けた。B世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった。

④「書き物」に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。干渉しない点については同じだが、⑤彼女は明らかにこの作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言つてもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように注意を払いながら通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、不用意にノートの中身に目や手を盗み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かつた。自分の手元に視線を落とし、「一切声は掛けず、ノートからできるだけ遠いところにジューズを置いた。コップに付いた水滴で、ページが濡れてはいけないと思つたからだろ。」

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話しもつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員的人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あつたら買いたい品物のリスト、テレビ漫画の予想ストーリー、⑥自分の生い立ち・みなし編、無人島への架空の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

今日は何にも書くことがないという日は、一日もなかつた。キャップさえ外せば、万年筆はいつでも⑦忠実に働いた。

だから初めてインクが切れた時は、Cた。

「どうしよう、万年筆が壊れちゃった」私は叫び声を上げた。

「もう壊しちゃつたの？ せつかくのパパのお土産なのに。」⑧新しいのは買いませんからね。壊したあなたが悪いんです」

新しいのは買いませんからね——これが母の口癖であり、得意の台詞だった。私は自分の不注意をD、絶望して泣いた。

「大丈夫。インクが切れただけだから、補充すれば元通りよ」

⑨救ってくれたのは、やはりキリコさんだった。

「スイスのインクなのよ。パパがまたスイスへ行くまで待たなきゃならないの？」

「いいえ。街の文房具屋さんへ行けば、必ず売っています」

必ずという言葉を強調するように、キリコさんは大きくうなずいた。

キリコさんは正しかった。私は万年筆を壊してなどいなかった。約束どおり彼女は新しいインクを買ってきて、補充してくれた。ケースの裏に書いてある説明書は外国語だったから、二人とも読めなかつたけれど、彼女は慎重に方向を見定め、崇高な儀式の仕上げをするように、万年筆の奥にインクを押し込めた。

「ほらね」それがよみがえつたのを確かめると、キリコさんは得意そうに唇をなめた。一層唇が光って見えた。

小川洋子「キリコさんの失敗」『偶然の祝福』角川書店より

受験番号

Blank box for the student's exam number.

問一 線部1「一足飛びに」・2「ひるまなかつた」の意味として最もふさわしいものを次のア〜エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 「一足飛びに」 2 「ひるまなかつた」

ア とんとん 拍子に ア 気落ちしなかつた

イ 一気に イ 気にとめなかつた

ウ 先に ウ おじげづかなかつた

エ 予想外に エ あきらめなかつた

問二 線部①「どうせ自分たちの知っている漢字ばかりなんだから」とありますが、これは大人たちのどういう気持ちを表しているか、説明しなさい。

問三 A・Bに入るひらがな三文字の言葉をそれぞれ答えなさい。

問四 線部②「それら」の指示内容を、本文中から十字で抜き出しなさい。

問五 線部③「優越感」とは、ここではどのような気持ちか、説明しなさい。

問六 線部④「書き物」に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった」とありますが、「他の大人」とは具体的に誰を指すが、答えなさい。

問七 線部⑤「彼女は明らかにこの作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言つてもいい」とありますが、キリコさんが「この作業」に敬意を払っていたのはなぜだと思いますか。本文をふまえて、あなたの考えを八〇字以上二〇〇字以内で書きなさい(句読点も一字と数えます)。

問八 線部⑥「自分の生い立ち・みなし編」とは何のことか、説明しなさい。

問九 線部⑦「忠実に働いた」とはどういうことか、答えなさい。

問十 C・Dに入る言葉を次から選び、ふさわしい形に直して答えなさい。

激怒する うろたえる 強調する 呪う ためらう

問十一 線部⑧「新しいのは買いませんからね」の「の」と同じ働きのものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちの知っている漢字

イ 『太陽の戦士』の出だしのところ。

ウ 他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。

エ せつかくのパパのお土産なのに。

問十二 線部⑨「救ってくれたのは、やはりキリコさんだった」とありますが、ここからはキリコさんに対するどのような気持ちが読み取れるか、最もふさわしいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 信頼する気持ち

イ 満足する気持ち

ウ 依存する気持ち

エ 崇拜する気持ち

問十三 次の文中の 線部の言葉の使い方が正しければ○を書き、間違っていれば正しく直しなさい。

(1) 京都の寺に、おとすれたときに、買ったお守り。

(2) その仕事を私にやらせてください。

(3) 冷めないうちにどうぞいただいてください。

(裏に続きます)

紙風船

黒田三郎

落ちて来たら
今度は
もつと高く
もつと高く
何度でも
打ち上げよう

美しい

願いごとのように

この詩は、作者がある雑誌の依頼で、子どもが紙風船で遊んでいる一枚の写真につけたものだそうです。紙風船は打ち上げてもまたふわりふわりと落ちてきます。宇宙船の船内なら上がったままでしょうが、**①** 願いごとも多くの場合、すーっと落ちてきます。

この詩の**②**の「い」のちは、終わりの、

美しい

願いごとのように

というすばらしい「比喩」にあると言えてほしい。

作者はこの詩について「風船はどんなに高く打ち上げても、それは地に落ちる」「願いごとの多くはむなし」「というニュアンスから、どうしたら抜け出すことができるかに努力したと述べています。この詩を読むと、いつも光さず空を見ていよう、紙風船が落ちてくるのを目をとめるより、**③** 何度も打ち上げるそのことに生きる証を見つけよう、というような祈りに似た詩の心が伝わってきて、励ましさえ感じます。

いったんかテレビの料理番組で、料理の先生が「なるべく(産地が)遠くの味噌をあわせて(ませて)使うと、おいしい味噌汁ができる」と話しているのを聞いて、言葉も同じだと思いました。つまり、**④** 言葉もなるべく遠いものを比喩で結び、新鮮なハーモニーをかもし出します。

「月とスッポン」ということわざがあります。二つのものがあまりに遠いすぎる、不相応だという意味ですが、このことわざ自体、月とスッポンという非常に遠いものを結びつけて、「月とスッポンのようだ」としているために、長くわたしたちの印象に残ることとなったとわたしは思います。反対に取り合わせのよいもの、美しく調和するものの比喩に「天目に竹窓」ということわざがあります。天目は天目茶碗、竹窓は竹の格子のある窓で、両方とも茶室につきものです。茶碗と竹ではやはり遠く離れたものたちです。

1 せんだって、友人と寿司屋で食事をしていましたら、まだ見習いを卒業したばかりと見える若い板前のひとりが、**2** あるまい、ことが包丁で指を切ってしまいました。すると友人が**3** すかさず、

「これがほんとの出血サービスだ」

と言いつつ、そのことわざの言葉の冴えを感じ入りました。「出血サービス」は比喩で、出血するような、つまり採算のとれない犠牲を払った——ということなのですが、実際に血が出てしまったので、**⑤** 比喩から比喩が削ぎ落とされてしまい、それがかえって新鮮な言葉の迫力になって、**⑥** わたしを打ったのだらうと思えます。

この比喩を、日常の会話でも効果的に使うと、表現が生きてきます。

「赤ん坊が激しく泣く」というより「赤ん坊が**A**がついたように泣く」、

「あの人はすこく酒が強い」というより「あの人はうわばみだよ」、

「政治家はうそつきが多い」というより「政治家は**B**が多い」、

といったほうが印象の強い表現になります。

アイヌ語に、「アムツアンキアン ピリカポンペ」という、子どものかわいらしさをたたえる言い方があります。「首飾りにして胸に飾っておきたい、それほどかわいい子どもだ」という意味で、なんとというすてきな比喩であることでしょう。

以上の例でいうと、「**A**がついたように泣く」のように、「ように」がつく比喩をシミリ(直喩)、「うわばみだ」と、「のよう」を省略した言い方をメタフォア(暗喩)と詩作上説明されています。比喩は詩で古来重要な働きをしてきました。

ところでいつだったか、これもテレビで見たのですが、スポーツ評論家の佐々木信也さんが、こんな話をしていました。

「フオークボールの投げ方を選手に教えるのに、球をこう握ってこうして投げるんだよと動作で見せるばかりでなく、カーテンのヒモを下へ引く張るように——という例えで話してやると、印象強く、よりよく伝えることができる」

驚きました。フオークボールを投げるという肉体的な技術は、その動きをやってみせることが最上の、それ以外にない教え方だと思っていました。そこに比喩が大きな働きをするなんて！ それから、佐々木信也さんは、また、こんなことを言いました。

「主婦にゴルフのスウィングを教えるのに、はじめは背中に赤ちゃんを背負っているつもりで、落としちゃダメですよ。さあ打ったら次の瞬間赤ちゃんを振り落とせ——と言

うとい……」

わたしはゴルフというものをやったことがありません。でも、**⑦** この説明を聞いてスウィングのことが分かったような気がしました。比喩の力です。

川崎洋「紙風船 黒田三郎」『教科書の詩をよみかえす』筑摩書房より

問一 線部①「願いごとも多くの場合、すーっと落ちてきます」とはどのようなことか、説明しなさい。

問二 線部②「い」のちについて、

(1) (2)での意味を答えなさい。

(2)「い」のち」という言葉を「このように用いることを筆者は何と言っているか、最もふさわしい一語を本文中から抜き出して答えなさい。

問三 線部③「何度も打ち上げるそのことに生きる証を見つけよう」と言っている

筆者の考えとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 希望を持って何度でも挑戦し続けるところに人間の生きる意味がある。

イ いっそう高く打ち上げることで、紙風船の本来の良さを生かすことができる。

ウ より高いところを目指し続けるのが、生を与えられた人間の使命である。

エ 人間は、生きている限り失敗を重ねて自分の力を伸ばしていくものだ。

問四 線部④「言葉もなるべく遠いものを比喩で結び、新鮮なハーモニーをかもし出します」とはどのようなことか、説明しなさい。

問五 線部1「せんだって」・2「あるまい」とか・3「すかさず」のどこでの意味として最もふさわしいものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 「せんだって」 2 「あるまい」とか

ア とりわけ ア つまらないこと

イ そういえば イ もつたいないこと

ウ そのうえ ウ あってはならないこと

エ このあいだ エ いかにもありそうなこと

3 「すかさず」

ア あわてないで

イ 間を置かないで

ウ 見過ごさないで

エ 遠慮しないで

問六 線部⑤「比喩から比喩が削ぎ落とされてしまい」とありますが、ここではどういうことか、具体的に説明しなさい。

問七 線部⑥「わたしを打った」とありますが、「わたしを」(た)の形で意味を変えずに言い換えなさい。

問八 A・Bに入る語として最もふさわしい漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問九 線部⑦「この説明を聞いてスウィングのことが分かったような気がしました」とありますが、なぜか、説明しなさい。

四 次の問いに答えなさい。

問一 次のカタカナを漢字に直して答えなさい。

(1) 茶道のリュウハに関する本をドクハした。

(2) レキホウする国々の食事のサホウを学ぶ。

(3) タイボウの新製品にタイマイをはたく。

(4) ヘイカはヘイイな言葉でお話になる。

問二 次の漢字の読みを答えなさい。

(1) 雑木林 (2) 上背

四

次の問いに答えなさい。

問一 次のカタカナを漢字に直して答えなさい。

(1)

茶道の

[]

リュウハ

に関する本を

[]

ドクハ

した。

(2)

[]

レキホウ

する国々の食事の

[]

サホウ

を学ぶ。

(3)

[]

タイボウ

の新製品に

[]

タイマイ

をはたく。

(4)

[]

ヘイカ

は

[]

ヘイイ

な言葉でお話しになる。

問二 次の漢字の読みを答えなさい。

(1)

雑木林

(2)

上背